



国際ロータリー第2630地区 岐阜Aグループ
岐阜中ロータリークラブ

Weekly Report

クラブスローガン
～親睦から奉仕へ・
奉仕から友情へ～

2013-14 RI テーマ
ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

平成 25 年 10 月 26 日(土)

第1079回例会 第1001号

会 長 森 井 脩 次
幹 事 渡 辺 成 洋
発 行 公共イメージ委員会
例 会 火曜日 12 時 30 分
会 場 岐阜都ホテル
事務局 岐阜市神田町 2-2
電 話 058-264-9235

会 長 挨 拶

会長 森井脩次



みなさん、こんにちは。今回の挨拶は、先日、日本での 100 歳以上の高齢者に関する記事が新聞に掲載されていたので、ご存知かとは思いますがお話しします。

現在、日本での 100 歳以上の高齢者は 5 万 4,397 人で過去最多を更新したとのことで、前年より 3,021 人増え、今年度中に 100 歳を迎えられる人が 2 万 8,169 人おみえになります。中部 3 県で 100 歳以上の人は 3,609 人。男女別では、男性が 431 人で女性が 3,178 人。県別では愛知 2,454 人、岐阜 792 人、三重 763 人です。全国でみますと女性が 4 万 7,606 人、男性が 6,791 人です。また、現在の日本の平均寿命は、男性 79.94 歳、女性が 86.41 歳であります。

100 歳以上の人数は、調査を開始した 1963 年に 153 人であったのに対し、その 35 年後の 1998 年には、1 万人を超え、昨年 5 万人を超えました。

我々岐阜中ロータリークラブも創立当時の平均年齢は 44 歳でしたが、現在では、61 歳になっており、高齢化が進んでいます。しかしながら、日本の平均寿命を考えれば、まだまだ若いので、お仕事にまた、ロータリークラブにがんばってください。

以上で今回の挨拶とさせていただきます。

卓 話

『高齢社会と地域福祉』

卓話者 伊藤 満様

※卓話はホームページの卓話集へ掲載しています。

岐阜中ロータリークラブ HP

<http://www.gifunaka.com/>



卓話者 伊藤 満様

国際ロータリー第 2630 地区 地 区 大 会

開催日 2013 年 10 月 19～20 日

開催地 桑名市民会館・ホテル花水木



桑名市民会館前にて (19 日)



RID2630 ガバナー挨拶 加賀修様



屋敷会場前にて (花水木・20 日)

前 例 会 の 記 録

第 1078 回

平成 25 年 10 月 15 日(火)

[点鐘] 12 時 30 分

[ソング] それでこそロータリー

[ゲスト] 社会福祉法人岐協福祉会

施設長 伊藤 満様

[ビジター]

[出席] 会員総数 30 名 (出席免除 2 名)

本日出席 14 名 53.33%

[行事] 卓話『高齢社会と地域福祉』

社会福祉法人岐協福祉会

施設長 伊藤 満様

担当 副 S.A.A.

次 回 予 定

第 1080 回

平成 25 年 11 月 5 日(火)

[点鐘] 12 時 30 分

[行事] 卓話『新補助金について』

ロータリー財団

委員長 渡辺忠彦様

担当 ロータリー財団委員会

初日は天候にも恵まれ桑名市民会館にはたくさんのメンバーが集結した。地区大会の目的は、親睦や感銘深い講演と地区内クラブやR I 全般に関する問題の討議によってロータリーの網領を推進することである。クラブの活動の成功例を発表する場であり、クラブ同士の交流や対話を実践する場でもあると「ロータリーの友」に記されている。

R I 会長代理の岩永様の講演では、背筋の通ったロータリアンと石井P Gへのお誉めの言葉から始まり奉仕の理想とは共存・共栄ではないか、そしてその中で最大限に自己を生かすことが大切とロータリーでの基本的な考え方を解説された。



基調講演では深川純一講師より「ロータリーの原点・今こそ職業奉仕」をタイトルとして1時間30分の講演をいただいた。1927年ロータリーでの職業奉仕が始まった。職業奉仕はロータリー用語であり、愛情の世界を持って職業を営む、そして例会出席でアイデアの交換を行い、世のため人のために奉仕した成功事例を例会で発表する。例会そのものが職業奉仕であると強い口調で話された。同様なことで米山梅吉翁の言葉に「ロータリーはまさしく道場である」とも云われているそうです。

ロータリアンは倫理概念を尊ぶこと、そして会社経営は良質な人材、役割分担が大切であり社員のおかげで会社はある。従業員の自主管理権を尊ばなければならない。役員は24時間営業であり、仕事の効率を高め従業員の不信感を取り除き、社員に感謝することがとても大切である。



二日目は冷泉為人氏の記念講演である。冷泉家は藤原俊成や定家を家系の持ち、800年に亘る「和歌の家」である。物事を永く伝えるには一流の二流が良いのではないか等ユーモアある内容で冷泉家の歴史や現在の年中行事を話された。

今回の参加人数は約1,300名。伊達PGは全国的な参加人数の平均は60%以上、当地区は出席率が上がらないと言。私にとっては経営、歴史を学ぶ楽しい大会となりました。

2013年10月20日

レポート 故金 正司